



特集

未来に架ける人の輪・音の輪

第7回 津山国際総合音楽祭  
を終えて



～ マーラーを超えて…～

クローリング・コンサート  
マーラー《交響曲第10番》演奏会

9月22日から10月4日まで、秋の津山を音のハーモニーで包み込んだ13日間。テーマ作曲家にマーラーを取り上げ、昭和62年（1987）から回を重ねてきた津山国際総合音楽祭。そして今年で20歳となる第7回において、マーラー交響曲第10番が演奏され、その集大成を迎えました。20年をかけてマーラーの全交響曲が、この津山に鳴り響いたのです。

そのほかクラシック音楽のみでなく、市民コンサートやジャズ、シャンソンを始めとするポピュラー音楽のコンサート、邦楽も含めた多彩なプログラムには多くの市民が参加しました。

各会場には期間中、延べ1万2800人余りの人々が訪れ、美しい音楽に魅了されました。



当時の面影を残す静かな町並み

国道181号にあるバス停から路地を南に1分ほど歩くと、東西に延びる旧出雲街道に突き当たります。ここから西に約400メートルの区間が、かつての宿場町「坪井宿」でした。今も町並みなどに古い宿場の面影が残っています。

宿場が整備されたのは、関ヶ原の戦いの後に津山に入った森忠政の頃（1603年頃）だといわれ、以後街道の整備や交通量の増大に伴い、山陰と山陽を結ぶ

交通の要として宿場機能の充実が図られていったと考えられています。

宿場は、中央に七森川から引いた水が流れる水路があり、それを境に南北に分かれていました。北側の道路は旧出雲街道で、多くの旅籠や民家が並んでおり、南側の道路は里道でした。そして水路のほとりには柳が植えられ、現在、町中にある常夜灯も、かつては水路のためと明かりをともしていました。

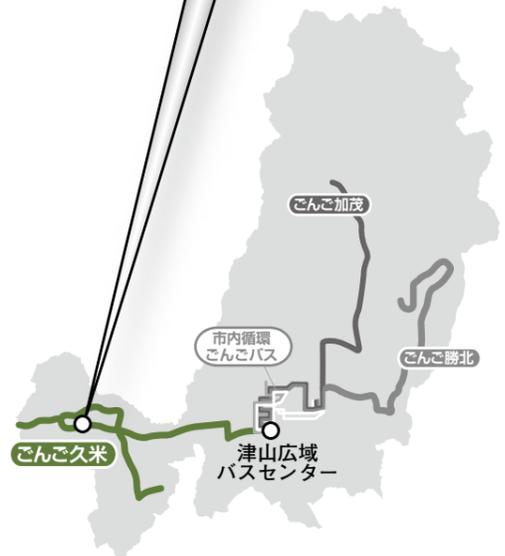
問い合わせ先 教育委員会  
久米分室 57・2166



▲安藤家

また、幕末から明治期に新聞記者や起業家として多彩な活躍をした岸田吟香が、少年期に寄宿していた安藤家もあります。

ごんごバスにゆられて



- 特集 未来に架ける人の輪・音の輪  
第7回 津山国際総合音楽祭を終えて 3
- 市政だより 6  
まちプロニュース  
知っていますか？「国民年金」  
後期高齢者医療制度 ほか

- 【まちかど写真館】 12  
つやま市民スポーツ祭 ほか
- 【ごんごクラブ】 14  
未来をひっぱりつづける津山人  
わたしのおすすめ
- 【けいじばん】 17
- 【くらし】 22
- 【津山城百聞録】 24  
～一宮の市町の警備～

